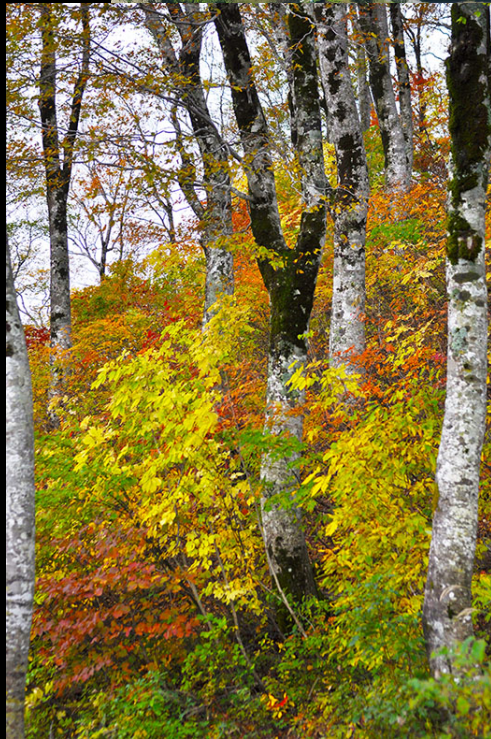
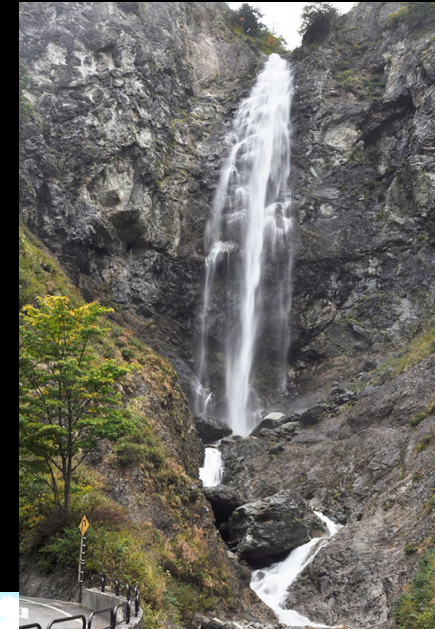
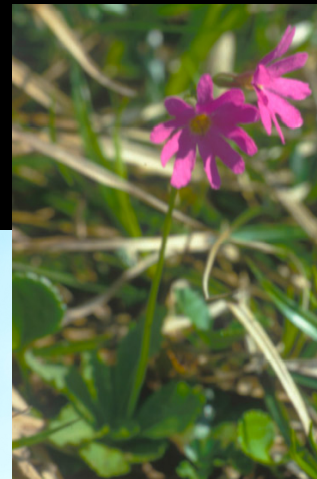


白山ユネスコエコパーク・リレーシンポジウム
「ユネスコエコパークで再発見する地域の魅力」

ユネスコエコパークとしての白山の魅力

津田 智（岐阜大学流域圏科学研究センター）



白山の特徴

- 位置:**
- 日本列島の中央部, やや日本海寄り
 - 石川県, 富山県, 福井県, 岐阜県の4県にまたがる
- 地勢:**
- 火山
 - ・ 山頂付近には火口湖が点在する
 - 西日本の最高峰
 - ・ 御前峰(2702m), 大汝峰(2684m), 剣ヶ峰(2677m)の三主峰と周辺の山々からなる
 - ・ 日本で最も西にある高山帯をもつ山で, 山頂付近はハイマツと高山植物に覆われている
 - ・ 富士山, および北アルプス(飛騨山脈), 中央アルプス(木曾山脈), 南アルプス(赤石山脈)に属する山々を除けば, 御嶽山, ハケ岳山群につぐ高峰(全国90位)
 - 太平洋側と日本海側を分ける脊梁山地で, 4河川(手取川, 九頭竜川, 長良川, 庄川)の源流
- 気候:**
- 日本海型気候
 - 日本屈指の豪雪地帯
- 植物:**
- 高山植物の宝庫
 - ・ ハクサンシャクナゲ, ハクサンフウロなど「ハクサン」の名がつく植物が20種ほどある
- 信仰:**
- 白山信仰
 - ・ 石川県の白山比咩神社(しらやまひめじんじゃ)は全国2700の白山神社の総本社

白山国立公園

白山を中心にして、およそ東西30km、南北40kmにわたって指定されている。

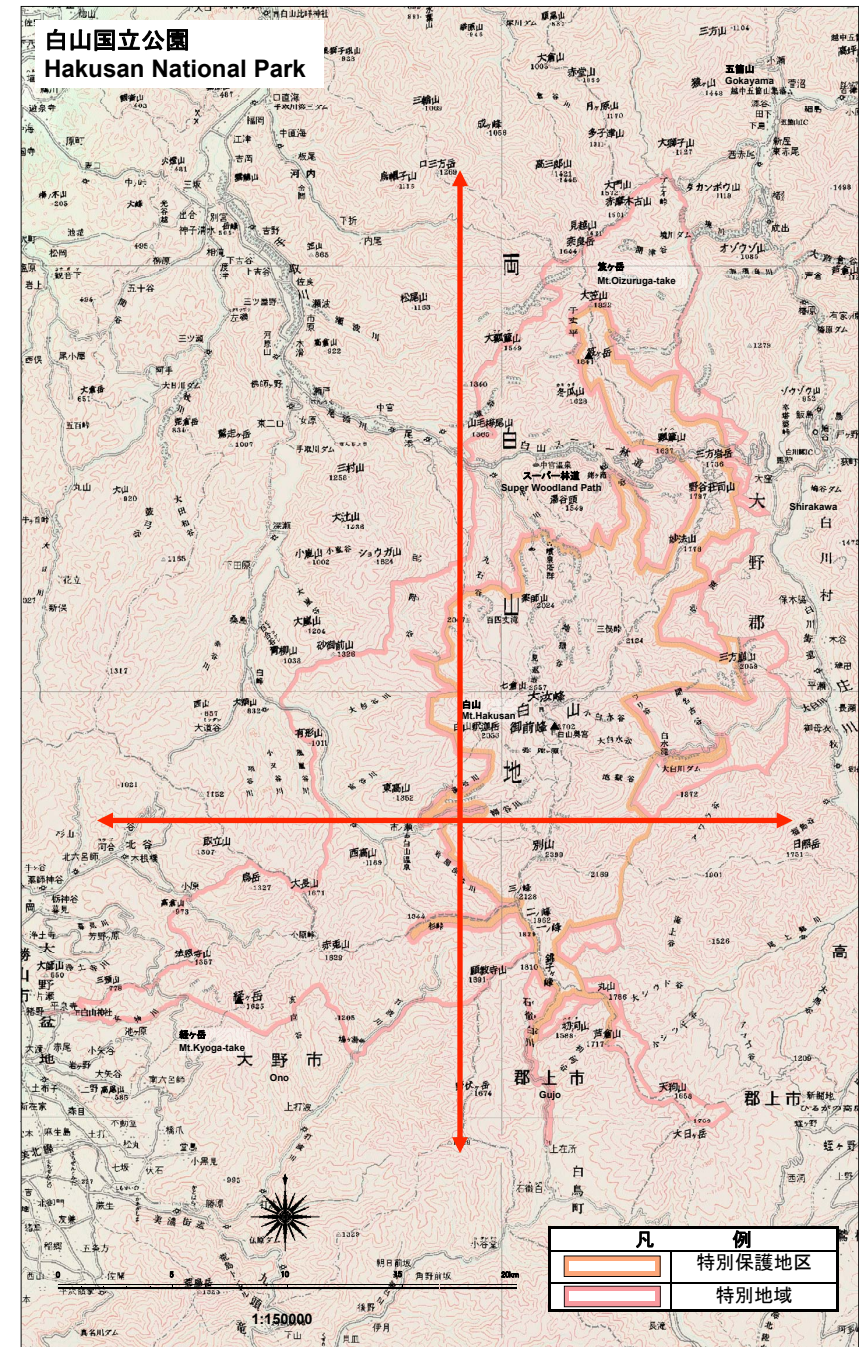
面積： 約480 Km²

特別保護地区37%: 約180 Km²

特別地域63%: 約300 Km²

歴史： 1955年 7月 1日 国定公園

1962年11月12日 国立公園(国内20番目)



国立公園とは

国立公園は**自然公園法**に基づき、その地域の**自然や景観などの保護**を目的とするものであって、その地域を**観光地**とすることを目的としているわけではない。

環境省が整備を進め、公園内に**集団施設地区**を指定し、国民休暇村、ハイキングコース(自然遊歩道)、ビジターセンター、エコミュージアムセンター、キャンプ場などが整備されている。

これらの施設を観光資源とし、**公園地区外**に宿泊施設などを整備することにより、公園外を含む「**地域全体**」を観光地として利用していることが多い。

白山国立公園では、室堂にビジターセンター、市ノ瀬、中宮温泉、南龍ヶ馬場にそれぞれビジターセンターとキャンプ場など、多くの施設が点在している

一部の国立公園の特別保護地区の中には、**宮内庁**や**神宮司庁**が管理する区域がある。これらの多くは神域として管理されているものであり、事実上、環境省の特別保護地区同様の規制が加えられている。また、その周囲のほとんどは環境省によって保護されている。

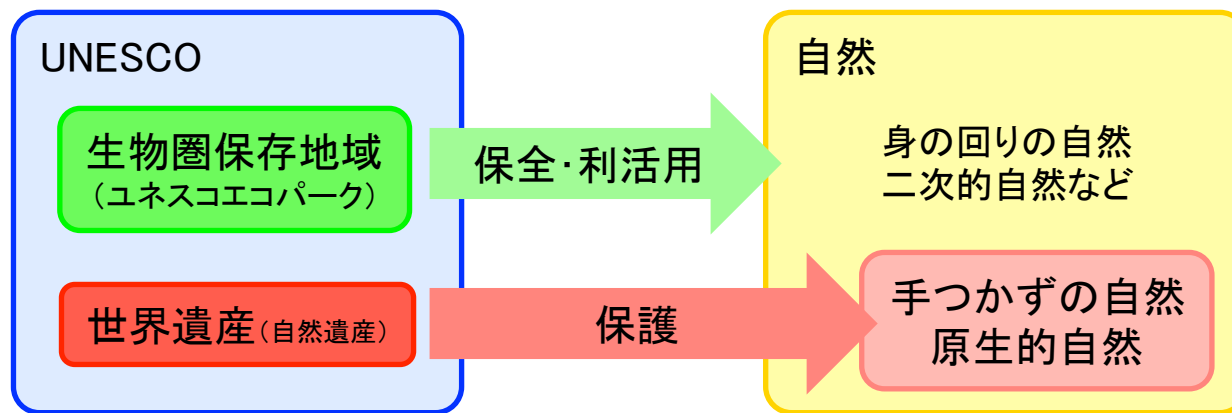
ユネスコエコパークはユネスコ(国連教育科学文化機関)が選定するので、**文部科学省**の管轄。

ユネスコ エコパーク

日本語では
「ユネスコエコパーク」と呼んでいる

ユネスコは1976年に **生物圏保存地域** (Biosphere Reserves : BR) の制定を開始

人間と生物圏 (Man and Biosphere : MAB) 計画における事業のひとつ



エコパークの構造

核心地域

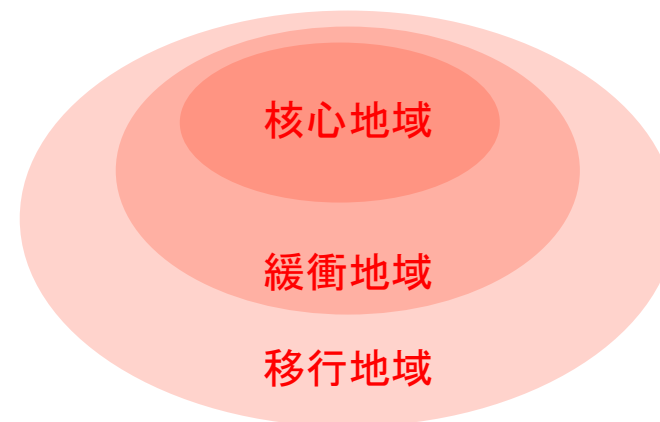
法律やそれに基づく制度等によって厳格に保護または長期的に保全
(長期的に保全)

緩衝地域

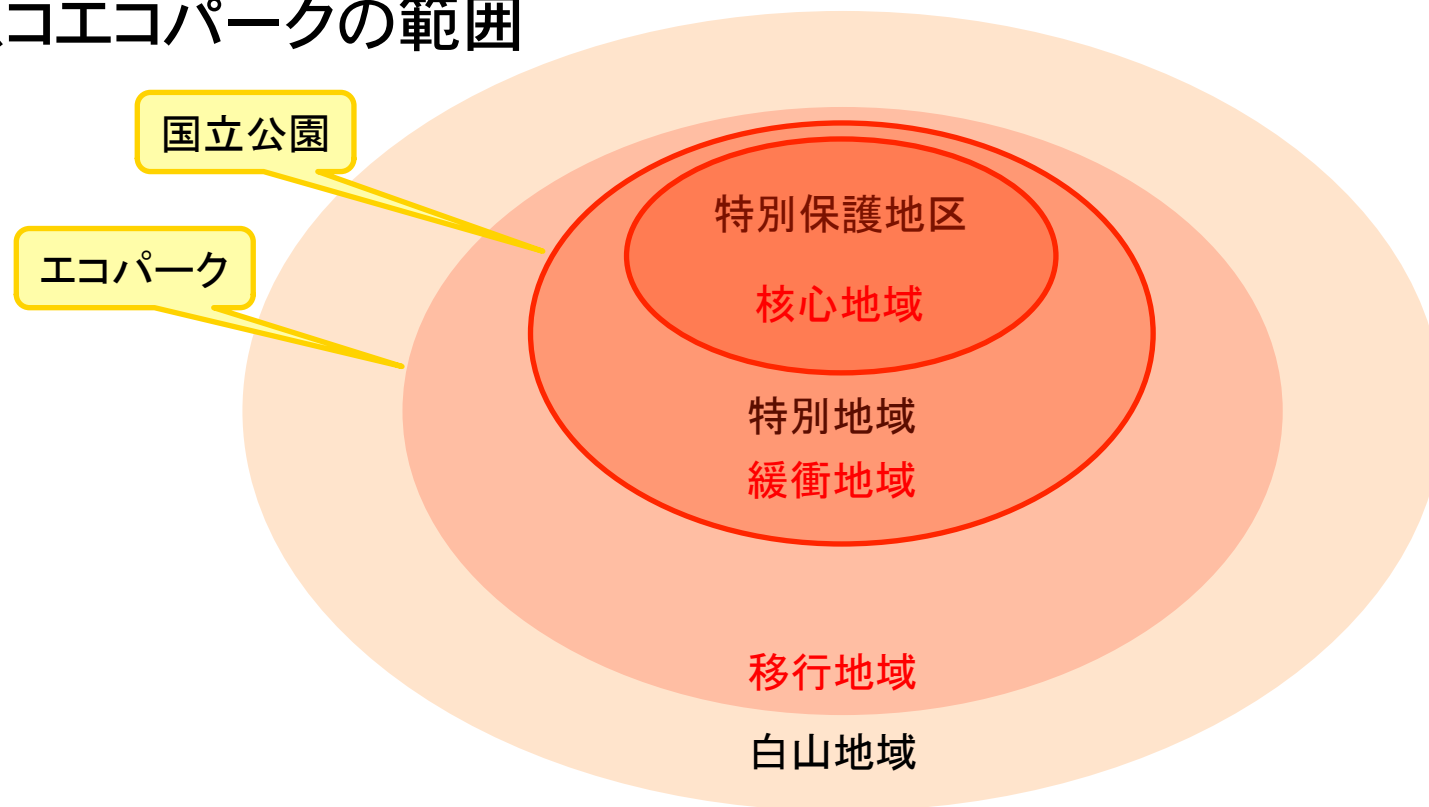
核心地域と周辺部のバッファー
(教育・研修・エコツーリズムなどで利用)

移行地域

地域社会や経済発展が図られる地域
(居住区)



白山ユネスコエコパークの範囲



核心地域

180 Km² (≡国立公園特別保護地区)

多くの動植物の生育が可能であり、法的にも厳しく保護され、長期的に保全されている地域。

緩衝地域

320 Km² (≡国立公園特別地域)

ユネスコエコパークのための実験的研究、教育や研修、森林セラピー、エコツーリズムなど、自然の保全・持続可能な利活用への理解の増進、将来の担い手の育成等がおこなわれる。

移行地域

未設定 (2015年末までに設定)

人々が居住し生活を営んでおり、自然環境の保全と調和した持続可能な地域社会の発展のためのモデルとなる取り組みがおこなわれる。

エコパークとしての条件

保存機能(生物多様性の保全)

人間の干渉を含む生物地理学的区域を代表する生態系を含み、生物多様性の保全上重要な地域であること。

学術的研究支援

持続可能な発展のための調査や研究、教育・研修の場を提供していること。

経済と社会の発展

自然環境の保全と調和した持続可能な発展の国内外のモデルとなりうる取組がおこなわれていること。

日本のユネスコエコパークは、1980年に登録された**白山**、**志賀高原**(長野県・群馬県)、**屋久島**(鹿児島県)、**大台ヶ原・大峰山**(奈良県・三重県)の4カ所と、**綾**(宮崎県;2012年登録)、**只見**(福島県;2014年登録)、**南アルプス**(山梨県・長野県・静岡県;2014年登録)の計7カ所が指定されている。核心地域や緩衝地域は、国立・国定公園や国有林の保護林として保全されている。

ユネスコエコパークは、豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶとともに、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す地域のモデルとして注目されている。

新しい白山ユネスコエコパークの範囲案

白山ユネスコエコパークの面積(速報値)

(単位: km²)

市・村	核心地域	緩衝地域	移行地域	合計	
南砺市 富山県	1	26	161	189	
白山市 石川県	98	159	189	446	
大野市	福井県	2	37	267	307
勝山市		0	34	107	141
高山市	岐阜県	14	9	300	323
郡上市		3	9	242	254
白川村		59	46	252	357
合計	179	320	1518	2017	

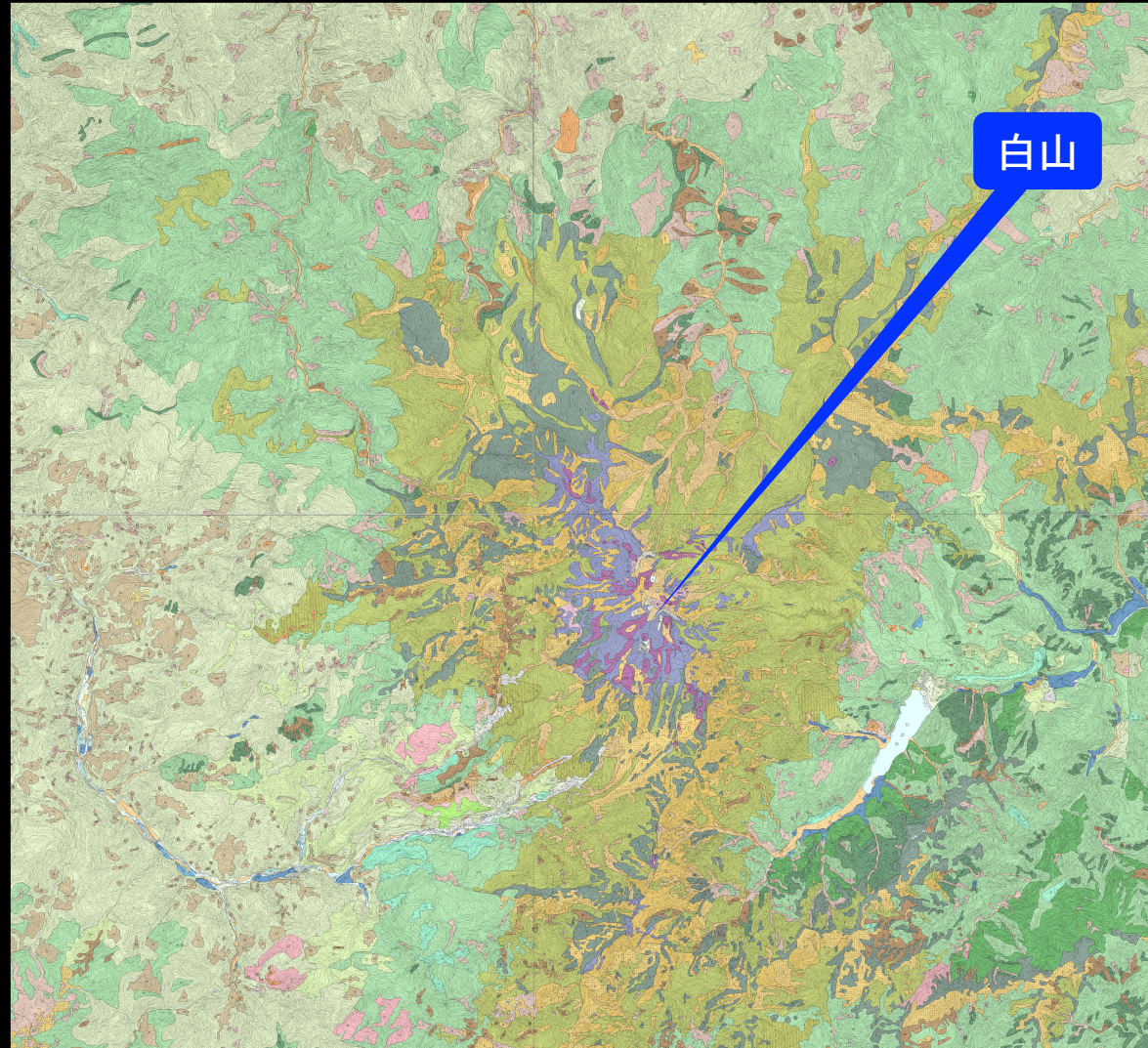
備考:速報値のため、数値は今後変更される可能性があります。

約 500 km²

約3倍の移行地域が新設予定

白山の植生

- コケモモ-ハイマツ群集
- 雪田草原
- シナノキンバイ-ミヤマキンポウゲ群団
- ミドリユキザサ-ダケカンバ群団
- チシマザサ-ブナ群団
- ヒノキ群落
- オオバクロモジ-ミズナラ群集



山頂一帯には高山帯の植物群落が発達する
亜高山帯の雪崩跡や崩壊地にはダケカンバなど落葉広葉樹の低木が発達する
山麓には広大なブナ林が発達し、西側と北側にはミズナラ林も多い

白山のブナ林

ブナ林といえばたいてい
原生林を想像する



鳥海山



鳥海山麓ではブナ林を薪炭林
として利用したため、ブナの萌
芽再生林があり、「あがりこぶ
な」と呼ばれている。

白山の植物



ハクサンコザクラ



ハクサンチドリ



ハクサンフウロ



ハクサンシャクナゲ

ハクサンオオバコ, ハクサンサイコ, ハクサンカメバヒキオコシ,
ハクサンイチゲ, ハクサンボウフウ, ハクサンスゲ, ハクサント
リカブト, ハクサンアザミ, ハクサンハタザオ, ハクサンシャジン,
ハクサンタイゲキ, ハクサンオミナエシ

ちょっとだけ、「白山の文化」っぽいお話

「茅(かや)」にまつわるお話です



茅場(半自然草原)の現状

かつては

草資源(飼料,肥料,資材など)が生活に必要だったため,草原を維持する必要あった

草原を確保するためには

攪乱の要因が必要

採草(草刈り), 火入れ(野焼き), 放牧などを継続的におこなわなくてはならない

(森林群落に向かう遷移の進行を止めて草原状態を保つ)

現状は

農業の機械化にともなって有畜農家がなくなった(餌が不要)

化学肥料の普及にともなって緑肥としての草を使わなくなった

茅葺き屋根の家屋が減り, 草の需要が無くなった

過疎と高齢化で重労働をとまなう草刈りができなくなった

過疎と高齢化で人手が確保できなくなり, 防火帯切りや火入れ作業ができなくなった

放牧よりも舎飼いが主流になり, かつてほど山へ牛を放さなくなってきた

などの理由で, 半自然草原を維持しておく必要も, 維持しておく技術も無くなりつつある

絶滅危惧生態系と呼べる(?)かも知れない



ある推定によれば

20世紀初頭の草原面積は5万Km²(13%)程度



現在は3000Km²(<1%)程度

二次的生態系の維持(保護)

二次的生態系にだけ生息する生物がいる

人工林 → 植えてしまえば, 管理しなくてもある程度長い期間は維持できる

薪炭林 → 数十年(20年くらい?)に一度くらいの伐採で維持できる

半自然草原 → 管理の作業(火入れ, 草刈りなど)を**毎年**おこなわなくてはならない

森林の場合, 数十年くらいならある程度の景観を維持できる

数十年に一度くらい何とかすることを考えればよい

草原は, 管理をしないで放置すると数年で低木林化してしまう

毎年管理しなければならない

何もしないでおくと, 日本の草原のほとんどはなくなってしまう

その結果, **草原に暮らす生き物もいなくなる(絶滅する)**

すでに半自然草原は相当減ってしまっている



五箇山の茅屋根



常総(茨城県)の茅屋根

白山地域では白川郷や五箇山が世界遺産になっていることもあり、きちんと補修されている。

しかし、屋根用の茅の全部を白山地域でまかなうことができないため、一部は富士山麓から購入しているという話もある。

協和(秋田県)の茅屋根



古海(長野県)の茅屋根

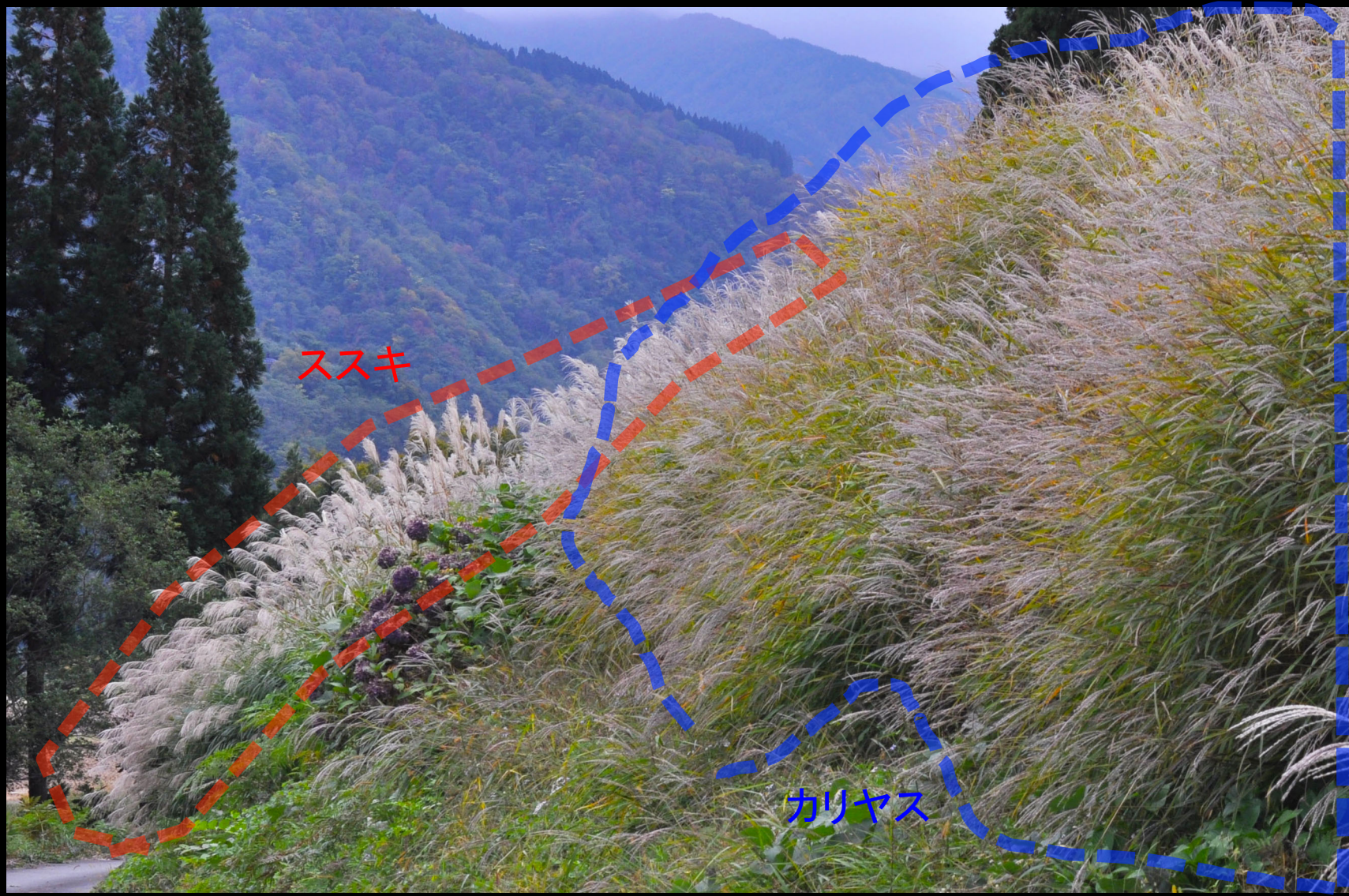


ひとつの提案

白山地域内で茅を生産し、それを使って遺産を守っていくことが、真の意味でのエコパークとなりえる気がします。

茅屋根が傷んできたとき、葺き替えせずにトタンで補修する例も多い

ススキとカリヤス



ススキ

カリヤス

ススキ(上)とカリヤス(下)



カリヤスの稈はススキよりも細く、
文字通り「刈り安そう」です

ススキとカリヤス

和名	科名	学名	地元の呼び名	茅屋根の寿命
ススキ	イネ科	Miscanthus sinensis	大茅(おおがや)	30年くらい
カリヤス	イネ科	Miscanthus tinctorius	小茅(こがや)	80年くらい

つまり, 非常に近縁

つまり, 良質な屋根材

カリヤスは全国どこにでも分布するわけではないが, 白山地域には分布している.

半自然草原は管理(利用)しなければ, いずれ無くなる運命.
せつかくの良い資源も利用しないまま消滅する可能性が高い.

今の状況だと, 白山地域の「良いモノ」が失われるのと同時に,

この地域の財産(お金)が富士山麓に流出することになる

カリヤス草原を再生・維持して茅屋根を守ることを考えてみてはいかがでしょうか？

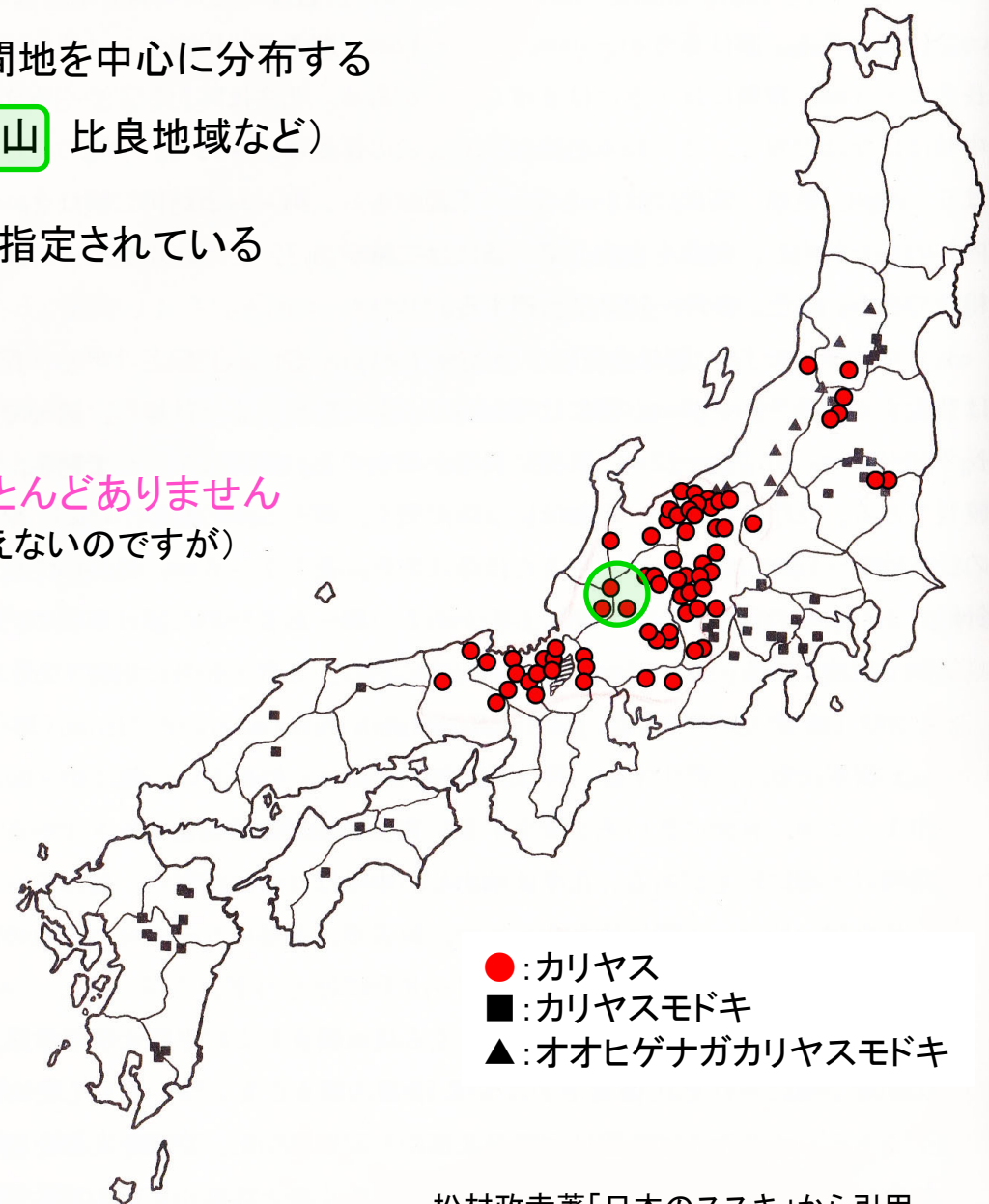
カリヤスの分布

山形県から兵庫県までの日本海側の山間地を中心に分布する

(北アルプス地域, 乗鞍, 御嶽, **白山** 比良地域など)

群馬県と栃木県では絶滅危惧種(II類)に指定されている

あちこち探してみたのですが,
他の地域でカリヤスを見かけることはほとんどありません
(右の図では白山地域に特別多いようには見えないのですが)



松村政幸著「日本のススキ」から引用

付録 茅葺き屋根の形状

白山地域では「合掌造り」という急傾斜屋根に特徴があるのですが、実は、



白山地域の特徴とも言える



岩手県花巻市

たいていの茅屋根は寄棟(上)で、
しばしば入母屋(下)も見られる



長野県真田町

白山地域では、白川郷も五箇山でも切妻タイプの茅屋根がほとんど
切妻の茅屋根は、全国的にはむしろ少数派でめずらしい



前沢曲り屋集落(福島県南会津町)



大内宿(福島県下郷町)



茅葺きの里北村(京都府美山町)

おわり